

林業相談

ハコネウツギのさし木について

問 海岸の畑地にウツギの防風垣をつくろうとおもいますが、造成上の注意点についてお知らせ下さい。(渡島管内G生)

答 ハコネウツギ(通称ゲンペイウツギ)は下北半島や松前地方で畑の防風垣などによく利用されており、日高地方にまで分布していますが、やせ地や風衝地にもよく耐え、増殖しやすいので治山用樹種や身近な花木としても利用価値のある低木です。一般にさし木でふやしますが、採穂およびさしつけの適期は4月いっぱいか、おくれても5月上旬までです。道南分場の例では、4月中の活着率は70%をこえ、5月もおそくなると40%以下でした。1~2年枝で10~15mm位の太さのものを20~30cm位に剪定鋏で切りとり、穂がかわかないようになるべく早く、深く耕うんした土壌に案内棒を用いて穂の全部を埋めこみます。

傷口からくさりやすいので皮がむけないよう注意し、対生する葉芽の位置が穂木にほどよく配置されるように採穂することが大切です。さし木床は湿地をきらうので排水をよくし床の高さも条件によって調節するようにします。また、作土のあさいところでは生育がわるいので、あらかじめ深く耕しておくのがよいでしょう。施肥は絶対必要というほどではありませんが、発根後堆肥や液肥などの窒素肥料を施すとよい結果が得られます。生長の程度は銭亀沢地域の



ハコネウツギの開花状況

例では、活着率が90%以上で年間生長25~30cm(3年間の平均苗高約170cm)程度です。ふううの場合、さし木の翌春30~40cm程伸びた苗を掘りとりて目的地に千鳥状または格子状に定植しますが、直さしの場合は活着率を多少すくなめに見込んで連続した渠植状にさしつけるのがよいでしょう。また直さしは夏期の除草がとくに大切です。植栽間隔は仕立目的や予定地の地形、幅

員などによって異なりますが、防風垣の場合はおゝむね苗間20~50cm、列間50~100cm程度がよいでしょう。ハコネウツギは夏に美しい紅白の筒状花をひらき、葉は密生して12月頃まで落葉しないので、収穫期をむかえる野菜や飼料作物などの保護に大きな効果が得られます。ヤナギ類マツ類などと組合せてより立体的な防風効果をねらうのも面白いでしょう。

(道南分場 舘 和夫)